

The Ritz-Carlton, Fukuoka

九州初の五つ星ホテル「ザ・リッツ・カールトン福岡」がこのたび福岡の天神エリアに開業し、ICAではホテル全館のアートコンサルティング～施工まで担当しました。福岡は古くから海の玄関口として大陸との交流で栄え、昨今ではスタートアップ都市として新しい風土が築かれる新旧ともに魅力あふれる街です。古来より日本の玄関口として文明を築いてきた福岡の土地柄から日本のルーツを紐解き、大陸と福岡、伝統と現代という2軸を経糸と緯糸になぞらえ、全館を通してリッツ・カールトンというブランドに相応しいアートワークを選定しました。

物件名

ザ・リッツ・カールトン福岡

開業

2023年6月

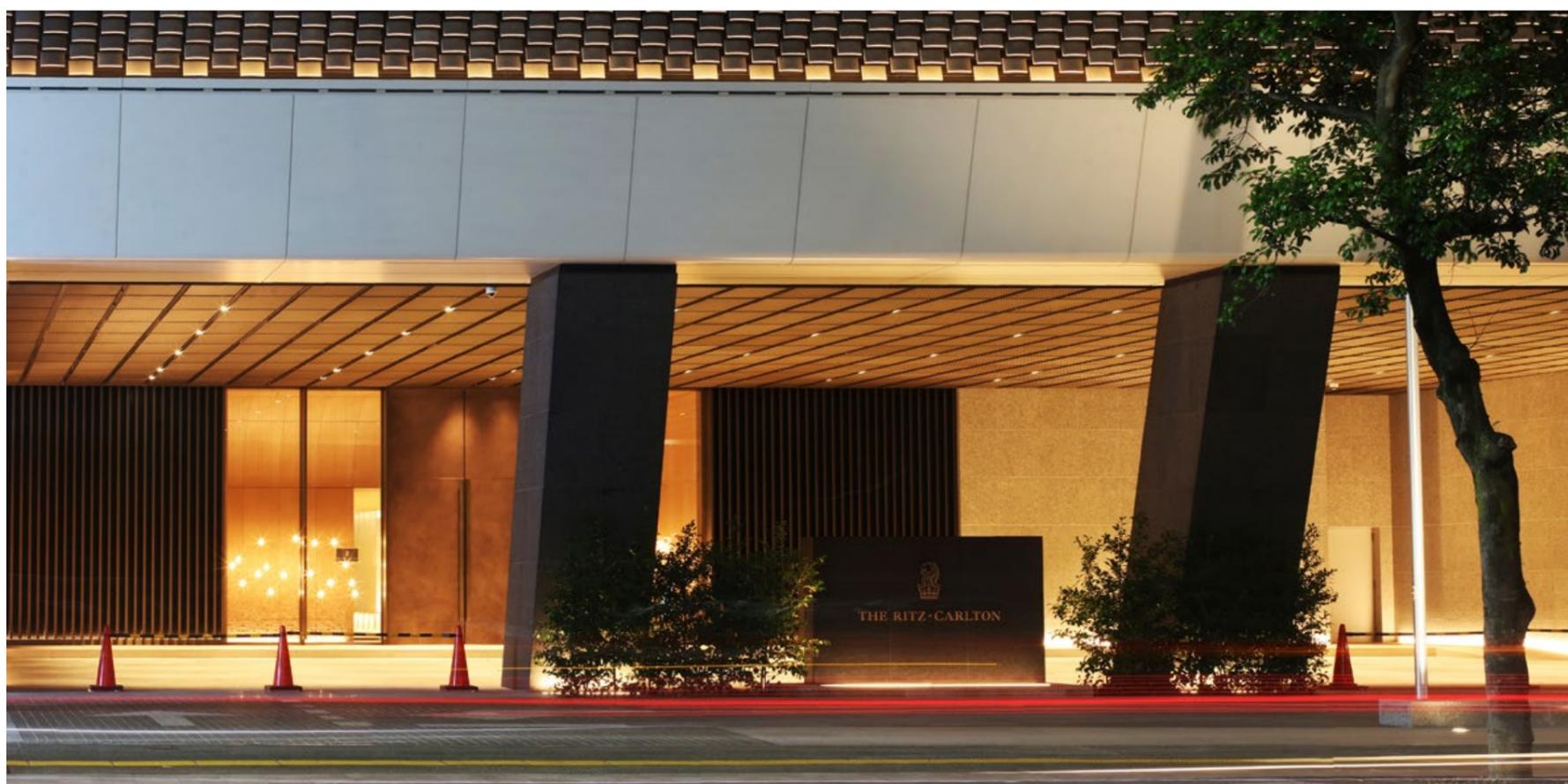
事業主

積水ハウス株式会社

インテリア設計

Public / Guest rooms: LAYAN Architects + Designers

Speciality Restaurant / Bar: 株式会社ストリックランド



L1 Arrival Lobby

The Beginning

～始まりの記憶～

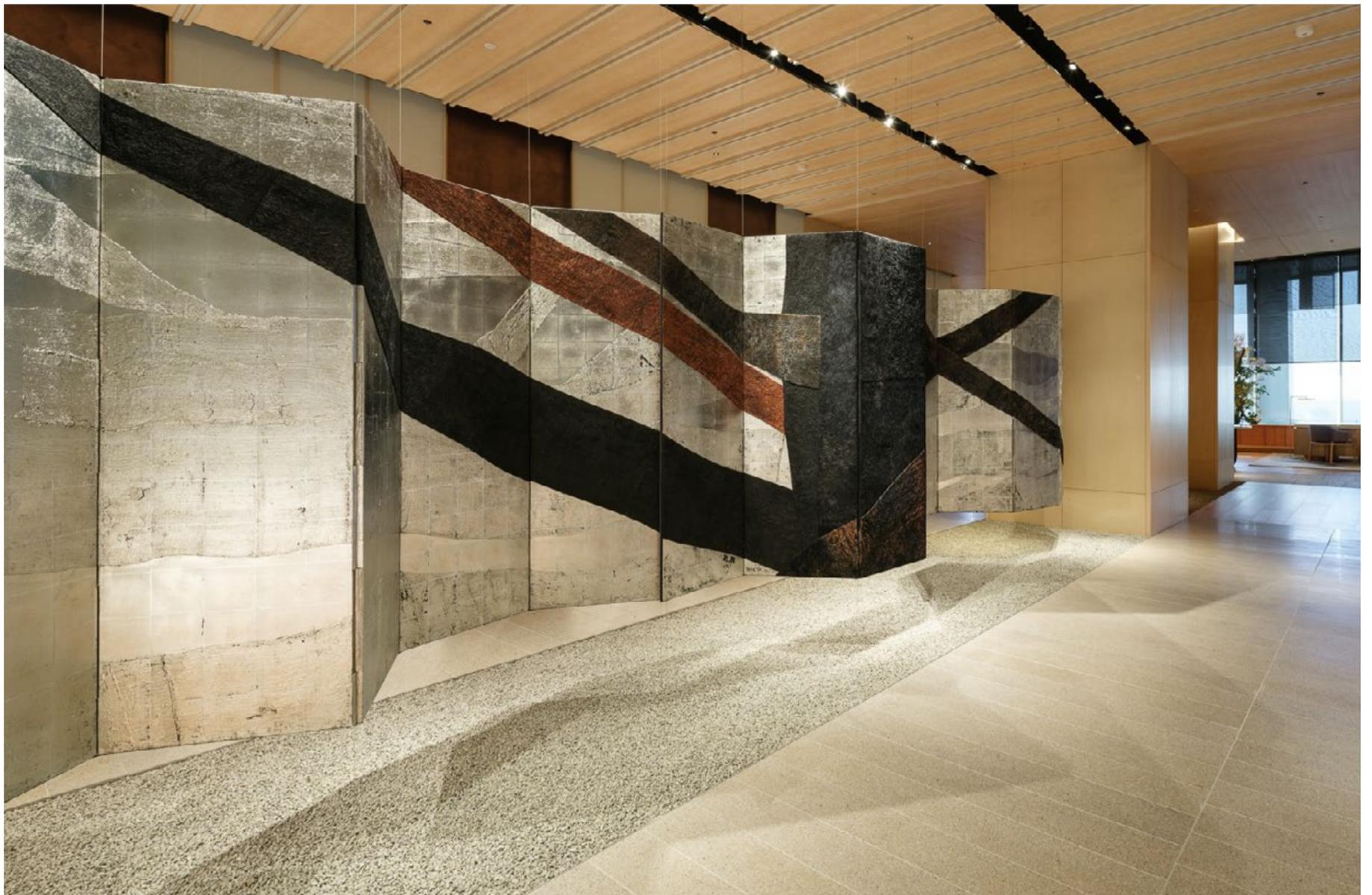
「日本書紀」に記された日本最古の神社のひとつ「宗像大社（むなかたたいしゃ）」。ゲストを最初に迎えるアライバルロビーには、「沖ノ島」「高宮祭場」という日本のルーツを物語る特別な場所をモチーフとして、博多織の織機からインスピレーションを受けた無数の経糸による立体的な水墨画を設置しました。無数の経糸の重なりが水墨画の濃淡を生み出し、遥か彼方に広がる日本の始まりの情景を表現しています。



L18 Lift Lobby

Scene of Eternity ～悠久の情景～

18Fのレセプションフロアでゲストを迎えるホテルロビーには、悠久の情景を感じさせる月と玄界灘の情景を、屏風という伝統的な型式で表現した作品を設置しました。ベンガラや焼箔、古裂地など古典的で風合いのある素材を用いながら、現代的でダイナミックな構図の作品は、ホテルを象徴する特別な作品として、ゲストへ驚きと感動を与えることでしょう。屏風の概念を覆す吊り下げ式の展示方法も必見です。

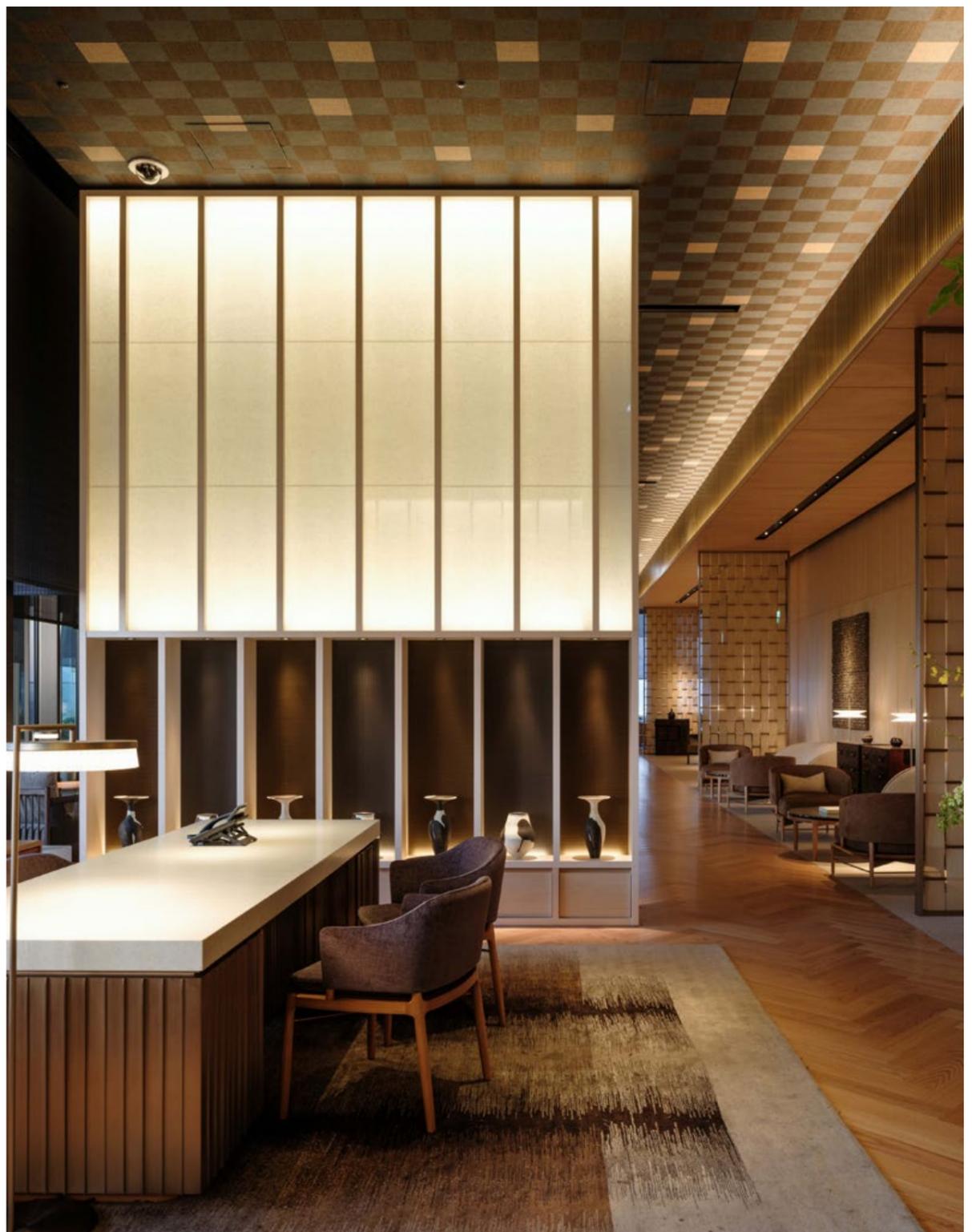


L18 Reception

Shape of Ancient

～太古の記憶～

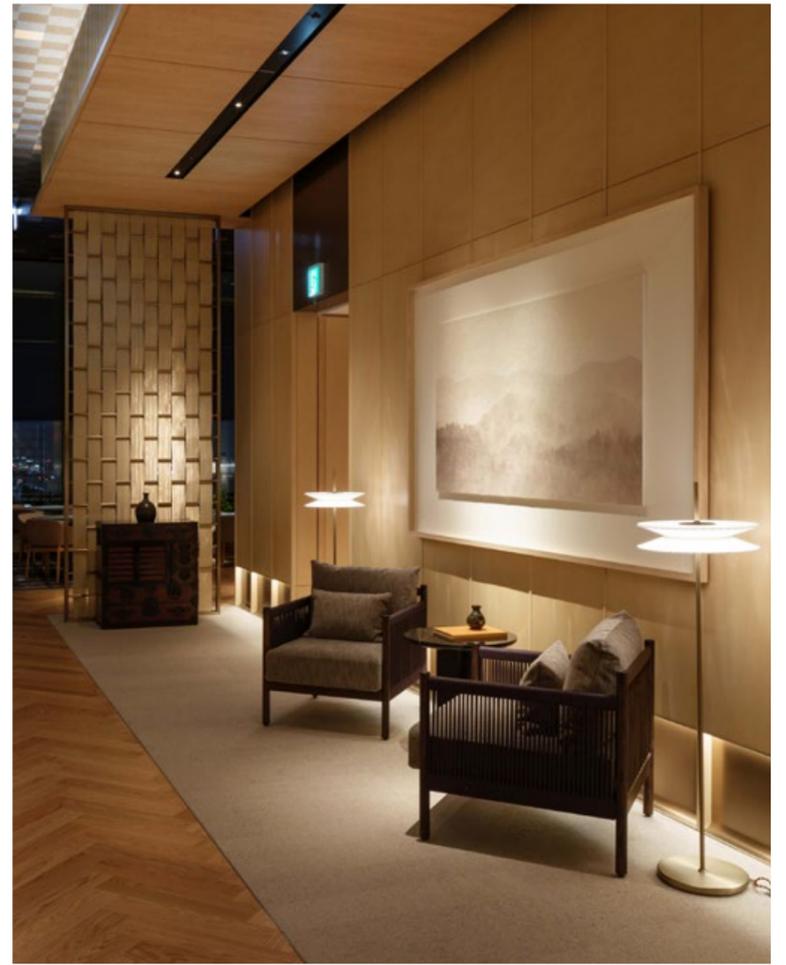
縄文と弥生、日本の文明の始まり。悠久の記憶が刻まれたその形に潜む神秘。わずか数メートルの土の中に2千年の記憶が凝縮されている福岡の土。現代の作陶家による壺「Jomon」と、福岡の土を混ぜ込んだコンセプト的な壁面アート。日本建築からインスピレーションを受けたモダンなインテリアに、奥深い太古の記憶を刻み込みました。



L18 Cafe [Diva]

Misty Mountains ～筑紫山水～

日本独自の味わい深い水墨画の美学を、写真というメディアで追求したコンテンポラリーアート。九州北部を北東から南北に福岡、佐賀、長崎の三県にまたがる、筑紫山地の美しい朝霧や雪景色を叙情的に表現しています。作家本人が現地に水墨画のような構図で撮影し、特別に作られた植物繊維の手漉紙を媒体とすることで、水墨画にも見える繊細な雰囲気で空間に穏やかな空気感を与えています。



L18 All Day Dining [Viridis]

Four Seasons ～博多華曆～

ラテン語で「Green」を意味する「Viridis」と命名された All Day Dining には、「博多華曆」と題し福岡の四季を表現したアートワークを設置しました。日本画の現代作家に描いて頂いた原画を金属織という現代的なアプローチで再構成し、春は福岡のシンボルでもある梅、夏は夏草をつたう朝顔、秋は風にたなびく芒（ススキ）と秋草、冬は寒さの中で花を咲かせる凜とした椿が描かれています。All Day にふさわしく、一日を通して光と共に表情を変える作品を堪能できます。



L24 Club Lounge [The Ritz-Carlton Club]

Mystique of Heritage ～沖ノ島の神秘～

「神宿る島」と呼ばれ、一般人の入島を制限し今なお古代祭祀遺跡が手つかずのまま守られている沖ノ島。宗像大社沖津宮遙拝所から望むと、静かな海の水平線にかすかに沖ノ島を望むことができます。その神秘の情景を彷彿とさせる印象的なブルー

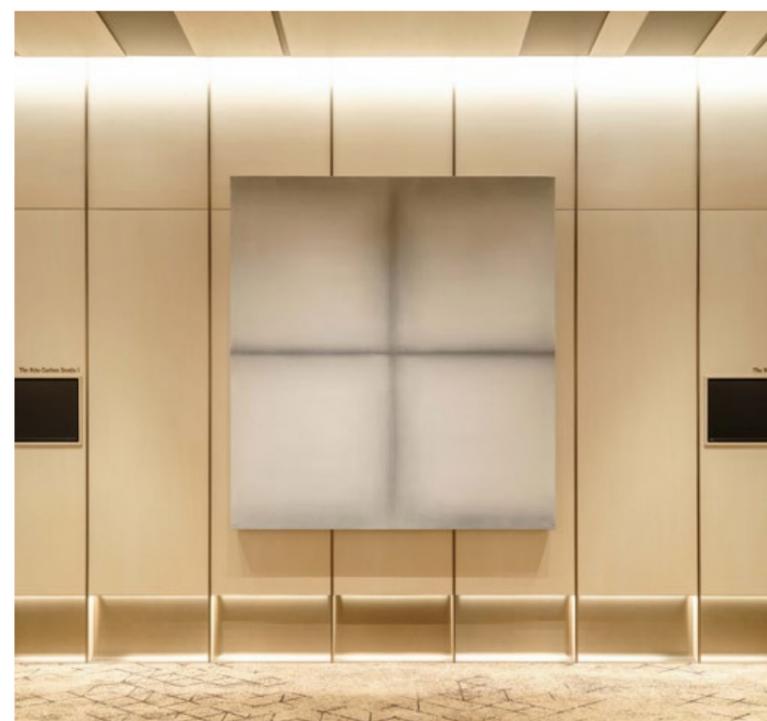
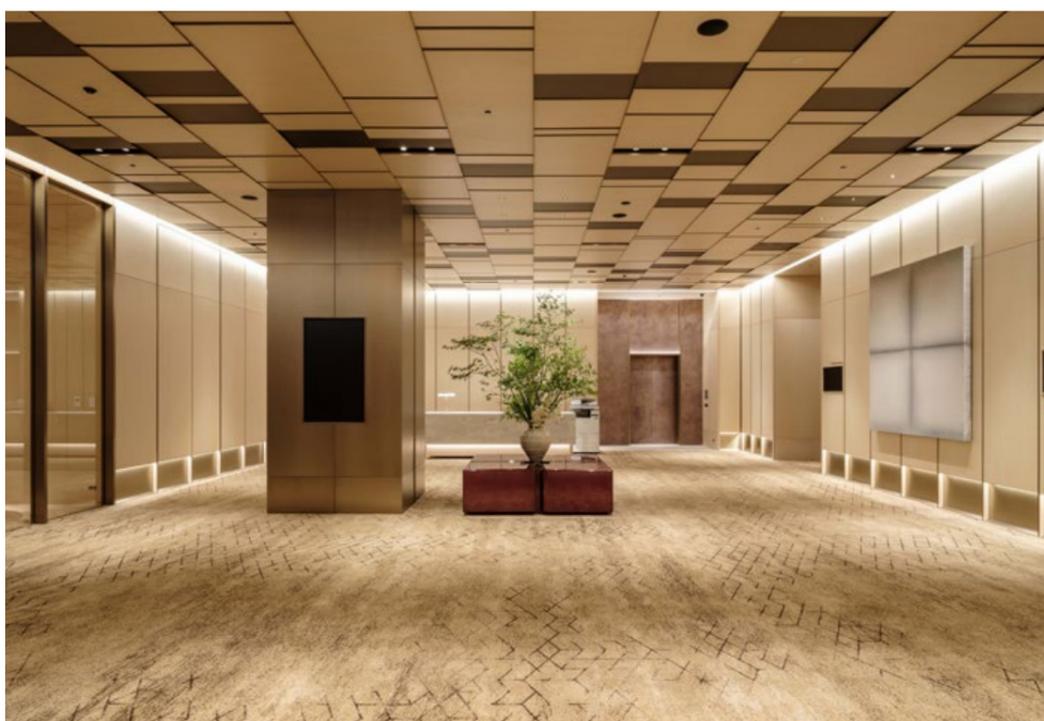
のミニマルアート、そして「肥前狛犬」がゲストをクラブラウンジへ誘います。ラウンジ内はコレクターズレジデンスをコンセプトに九州各地で収集した骨董品を各所に展示しました。



L3 Foyer

Celebration in Kyushu ～九州礼讃～

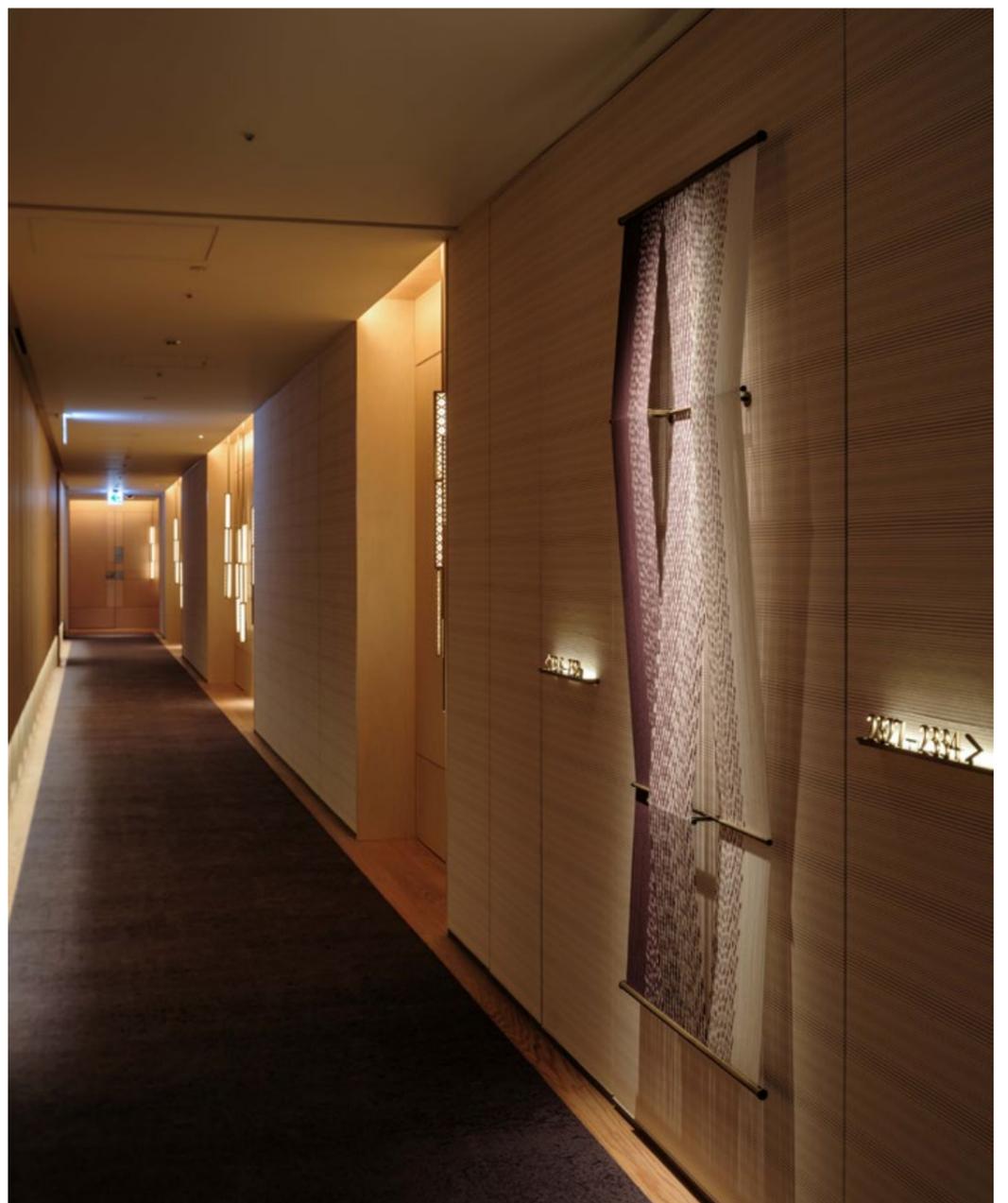
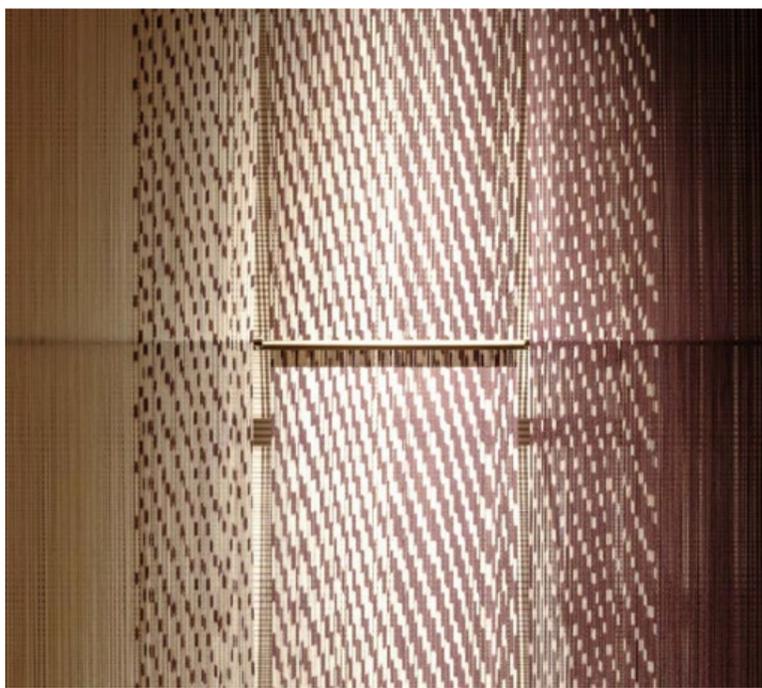
宴会場とチャペルがある3階のホワイエには、クラブラウンジのブルーの作品と同じく、九州を代表するミニマルアーティストの白い作品を展示しました。幾重にも塗り重ねられた白と水平と垂直のラインのみで構成された作品は、九州という土地の歴史や風土、そのすべてを礼讃するとともに、ゲストの特別なひとときをも讃えています。



L19-23 Lift Lobby

Inherit the Craftsmanship ～伝統の継承～

客室階のリフトロビーには、福岡の伝統工芸の一つである久留米絣（くるめがすり）を使用し、経糸のみを立体的に構成したインスタレーションを設置しました。糸を括（くく）ることで染め柄を生み出す絣の特性を活かし、「括り」のピッチを少しずつ変えてグラデーションを表現しています。絣特有の美しい「ずれ」が、えも言われぬ風合いを演出しています。



Guest Room

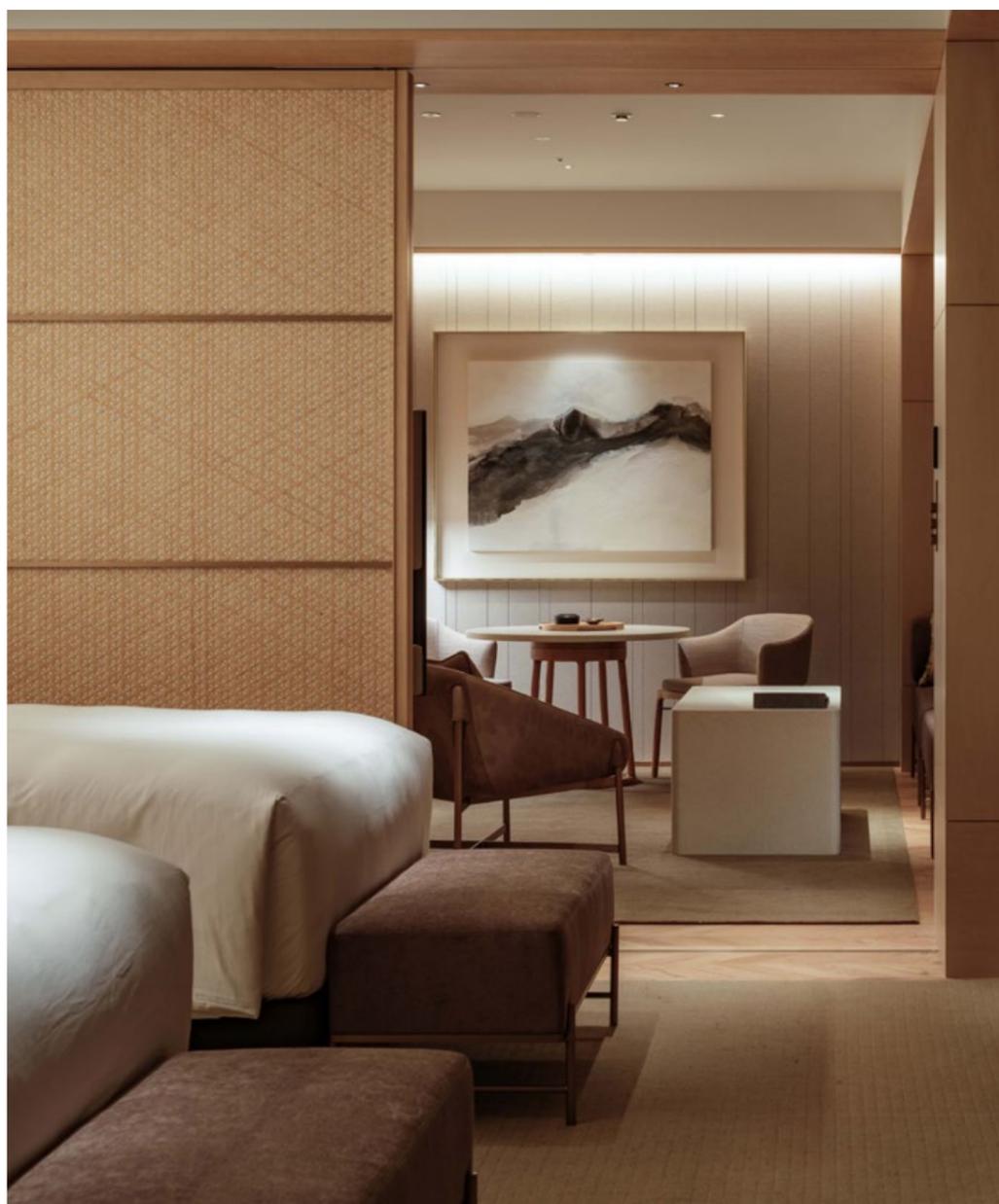
Standard King / Double

Scenery to the Continent ～福岡の心象風景～

ゲストルームのアートワークは福岡の心象風景として、玄界灘とその先に見える大陸への情景をテーマに制作された抽象画を設置しました。日本画の顔料と墨の濃淡がその情景に奥行きを与えています。



Deluxe Suite



Premium Suite



Presidential Suite



The Ritz-Carlton Suite

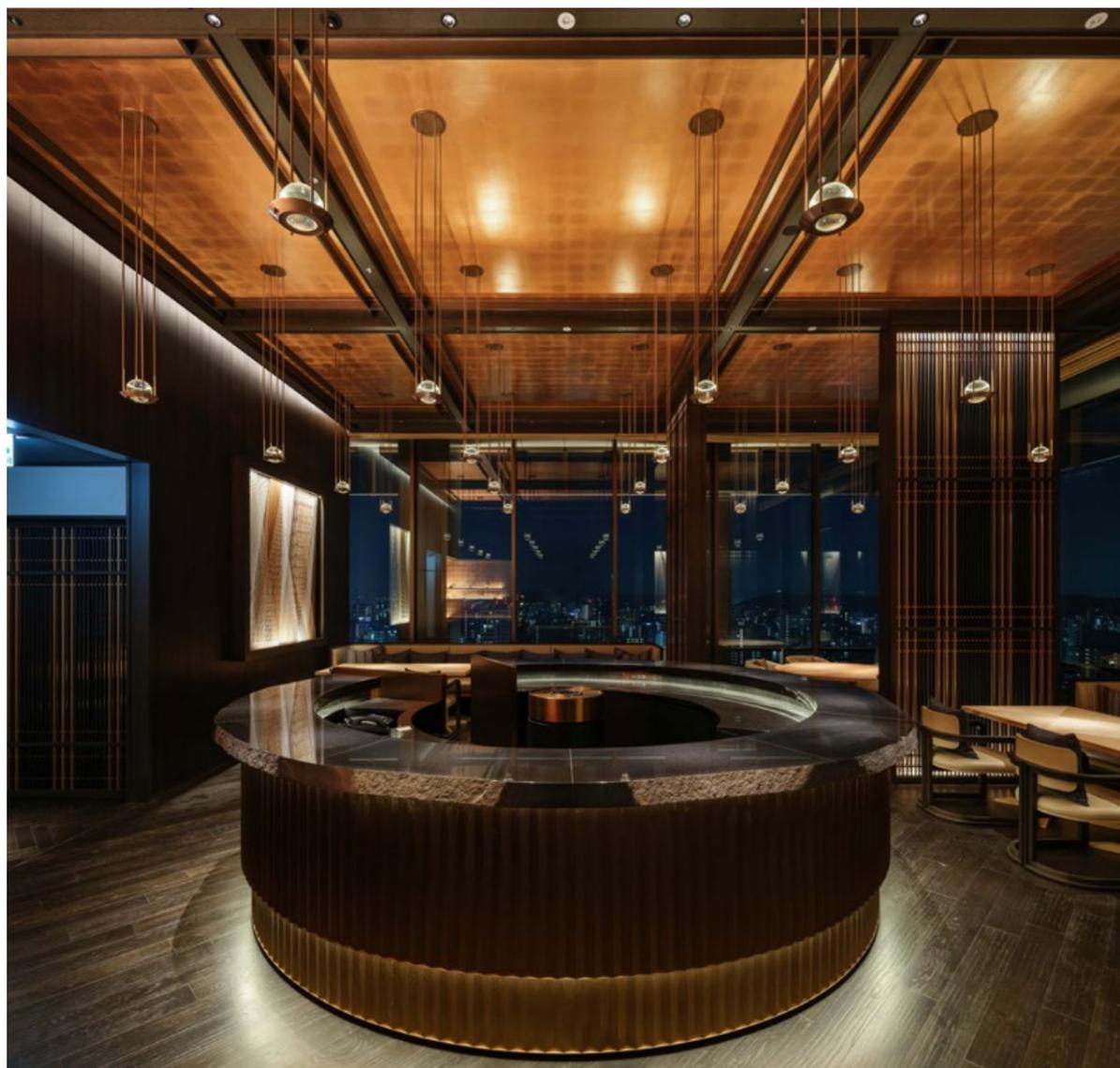
リッツカールトンスイートには、福岡を代表するアーティストの作品や福岡で作陶された1点もののオブジェを各所に設置し、他の客室とは差別化した特別感を演出しています。いわゆるホテルに飾られそうな分かりやすいモチーフのアートではなく、個人的なコレクションで収集されたような風合いの箔画や墨絵を選定することで、素朴ながらも特別なレジデンス感を演出しています。



L18 Speciality Restaurant [幻珠]

Craftsmanship of Fukuoka

～工芸の再構築～



福岡を代表する伝統工芸、博多織からインスピレーションを受けたストリングアート。博多織を制作している織元に足を運び、織機の上にある無数の紐の重なりから着想を得て、その美しさ、力強さを何層にも重ねたストリングアートとして表現しました。重厚感のあるインテリアに負けない存在感を放っています。

L18 Speciality Restaurant [幻珠]

Craftsmanship of Fukuoka

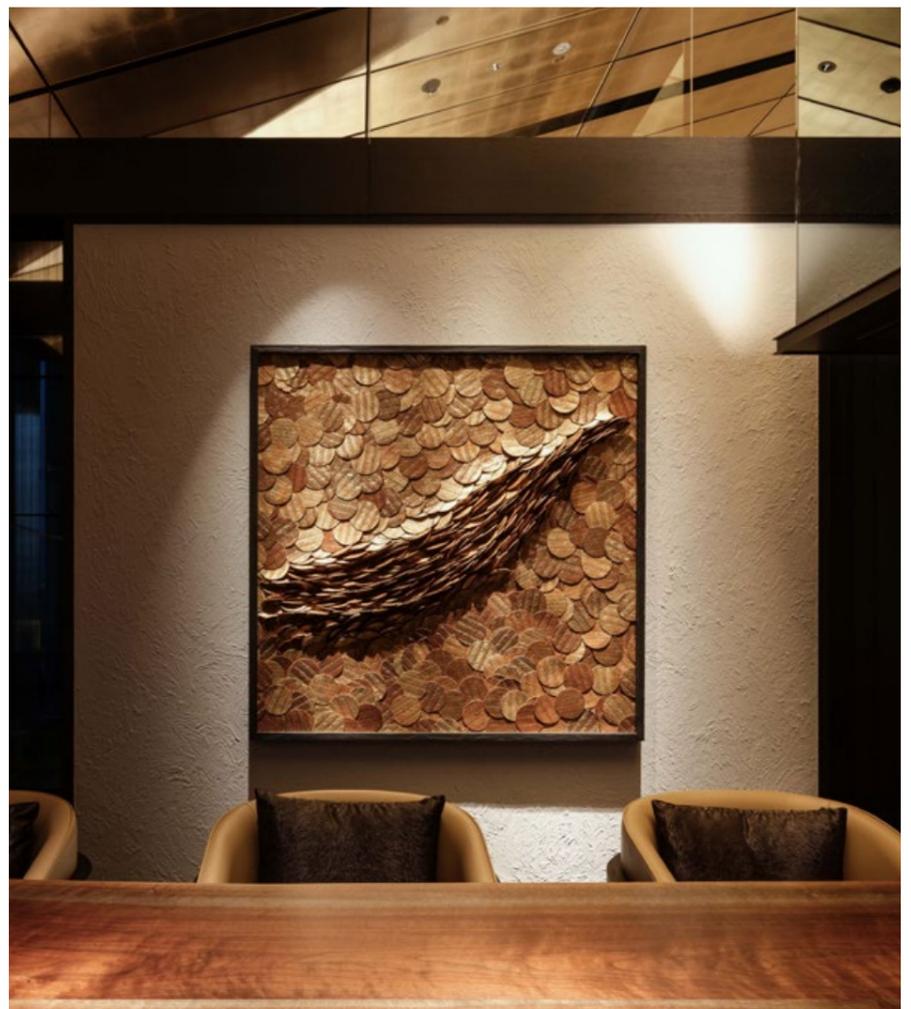
～工芸の再構築～



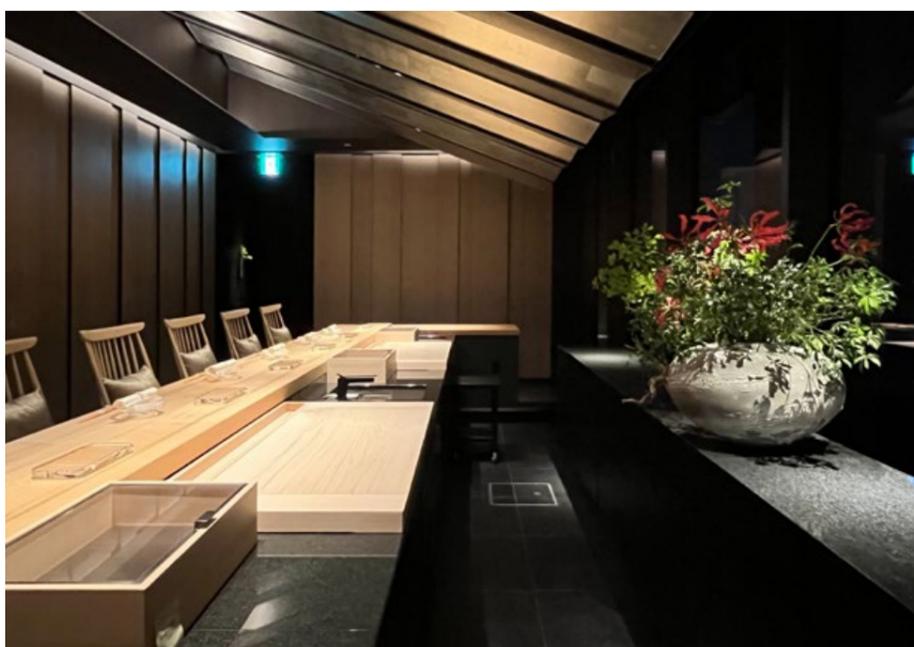
陶磁器として日本で最初に伝統工芸品に指定された小石原（こいしわら）焼。350年以上の歴史を持ち、旧小石原村には現在も約50軒の窯元があります。窯元から陶器を焼く際に敷板として使用される陶窯の棚板を提供してもらい、アートとして再構築しました。



博多織は、たくさんの経糸（たていと）に、細い糸を数本まとめ合わせた太い緯糸（よこいと）を力強く打ち込んで作られる絹織物。中国の王朝・宋から、博多の商人が持ち帰った織の技法がルーツといわれています。この作品は金糸の経糸を一部露出させ、博多織の配列と配色を抽出させています。



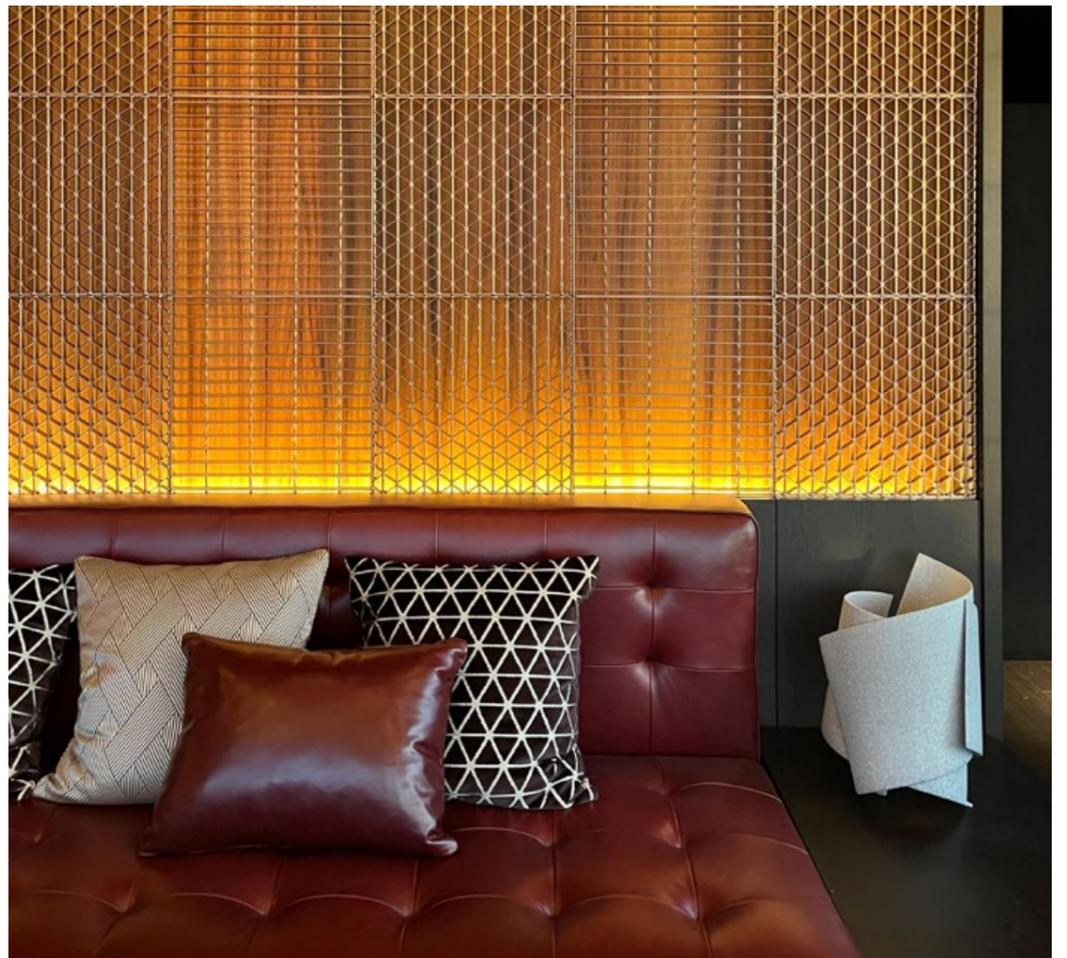
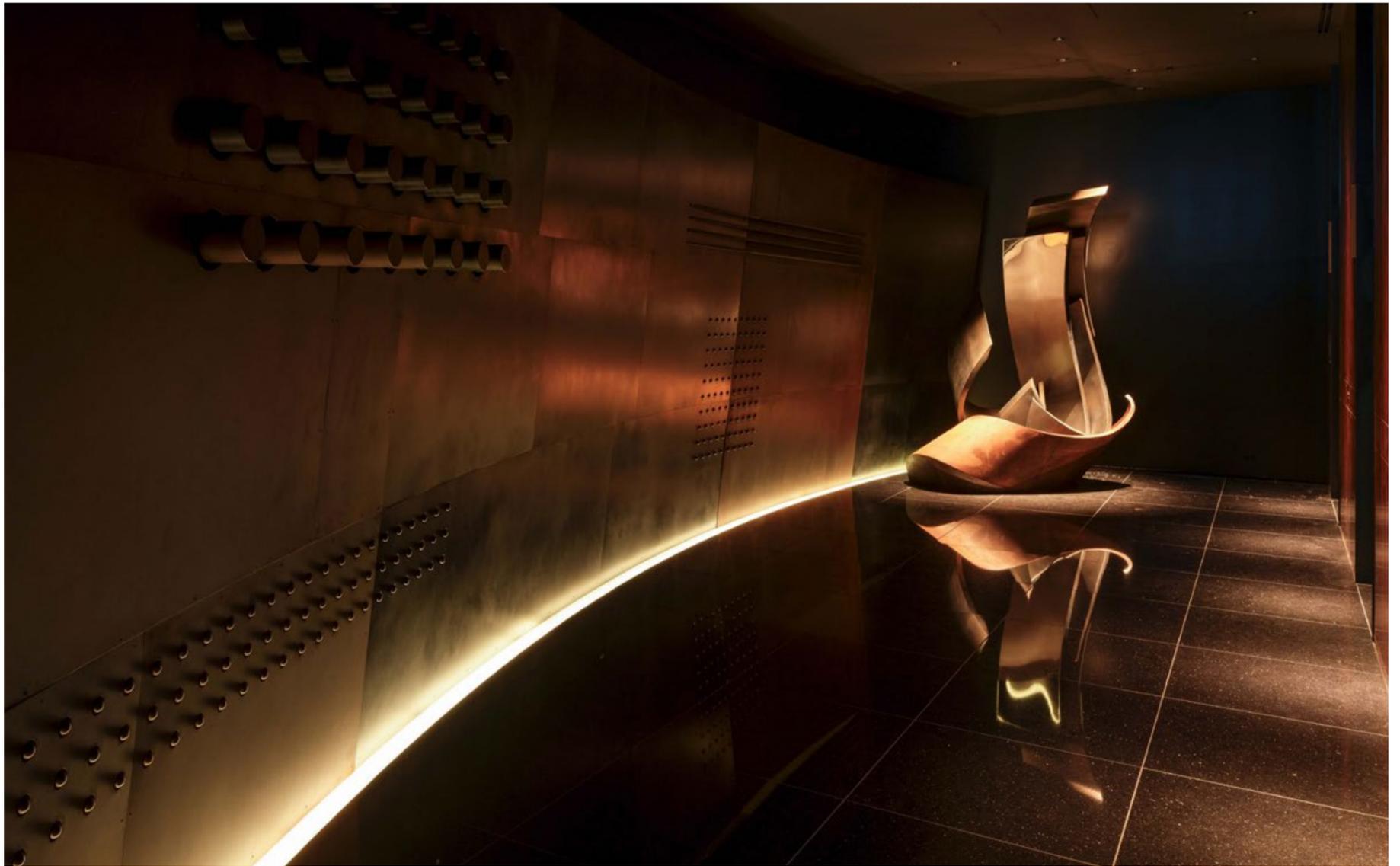
福岡の伝統工芸の一つ、籃胎（らんたい）漆器。漆を塗る前の竹編みのピースを久留米にある籃胎漆器工房で約600枚制作して頂き、それを立体的に再構築しました。



L24 Bar [Bay]

Introduced with Ship ～博多湾の記憶～

東アジアの玄関口として発展した博多湾の記憶を、船舶というモチーフで表現した金属彫刻作品。同コンセプトでデザインされたインテリアと呼応しつつ、より存在感を持たせるために金属の仕上げ、テクスチャーにコントラストを付けたデザインになっています。



ICA

Interculture Art Inc.

ICA Bldg. 4F, 560-2 Waseda-Tsurumakicho,
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041

t: +81(0)3-3207-3911

e: contact@intercultureart.com

intercultureart.com

©Interculture Art Inc.